

2對の距は銀白色の鱗を裝ひ、第二跗節と約同長、第二跗節は第三跗節よりも幅廣く且つ短く、第四は第五跗節よりも短小である。腹部は背面黃色、腹面白色である。

體長6耗内外、前翅長7耗内外、縁毛を含む鬚長10耗、觸角長6耗内外。

宿主植物 アカザの髓内に棲み、苞形の蟲癭を形成する。

成蟲發生期 8月4—10日。

## 第五章 同翅目 HOMOPTERA

### 第一 木蟲科 PSYLLIDAE

#### (1) アケビマダラキジラ *Apholara akebiae* SHIN. n. sp.

額錐は頭部と約同長、綠色にして中央部は幾分縊れてゐ、多數の綠色長毛を生じてゐる。觸角は10節より成り、一、二及び九、十の4節は全長に亘りて黑色、第八節は後半部のみ黑色、第四—第七節の末端部のみ輪狀に黒褐色。頭胸兩部の和と約同長、兩複眼間の約2倍長である。第一、第二の兩節は第三節の幅の約3倍大の幅を有し長幅約同大、第三節是最長片にして第四節の約2倍長、第四節は末端に近く1個の圓狀感覺器を具へてゐる。第五節は第六節又は第七節と約同長にして末端に近く1個の圓狀感覺器を具へ、第七節は第六節よりは長いが第三節よりは短く、第八節は第六節と約同長にして末端に近く1個の感覺器を具へ、第九、第十の兩節は何れも最短片にして、第八節よりも僅かに短く、第十節は末端より長短2本の剛毛を生じ長剛毛は節幅よりも長い。複眼は濃赤色、單眼の周圍は赤色味を帯びてゐる。胸背は1對の大形なる白色蠟腺を具へてゐる。翅の脈は淡綠色、膜質部は基部が準透明、後半部には薄黑色の斑點が散在してゐる。亞縁脈の中片は中肘脈柄の約1倍

半長、肘脈柄は中脈柄の約3分の2長、翅の後半部は稍黄色味を帯び多数の薄黒色の小斑點を散在せしめてゐる。頭胸兩部が橙黄色なるに反し、腹部の背面は橙黄色地に横走黒色帶を各節に具へてゐる。肢は短大にして腿節は異常に肥厚してゐる。黒色乃至褐色、後肢に限り、第一跗節には5個、第二跗節には黒色なる距爪4個と第二跗節端に約3個の剛毛を生じてゐる。雌壺の産卵管は黄色にして上瓣は下瓣よりも長い。

(1) ミホシキジラミ *Aphalara multipunctata* Kuwayama

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., V., p. 18 (1920).

觸角は頭胸兩部の長さの和と約同長、10節より成り、第一、第二及び第九、第十の4節は全長に亘りて黒色、殘餘の節は綠色、第一、第二の兩節は幅に於て第三節のものの約3倍、第一、第二の兩節は約同長。第三節是最長片にして第二節の約1倍半長、第四節の2倍以上に長く、第四、第五の兩節は約同長、第五節には末端に近く1個の圓狀感覺器がある。第七節は第六節よりも幾分小さいが幅は幾分大、第八節は第三節に次いで長く、末端に近く1個の圓狀感覺器を具へてゐる。第九節は第八節と約同長なれども甚だしく膨れてゐ、第十節は第九節よりも短い、膨大してゐ、且つ末端よりは2本の剛毛を生じてゐる。口吻は長くして腹部に達し、末端節は黒色。

頭胸兩部は背側腹の4面に亘りて黒褐色にして、後胸部の腹面にある彈距は黒褐色である。複眼は濃赤色、單眼3個の周縁も赤色を帯びてゐる。肢は基・轉・腿の3節は概して黒褐色、其の他の節は綠色。腿節は甚だしく肥厚してゐ、脛節は腿節と約同長、第一、第二の兩跗節は約同長にして綠色。脛節端には約8個の太い黒色の剛毛を生じてゐる。爪は綠色にして黒色ではない。翅は體長よりも長く、長さは幅の2倍以上にして末端は尖らず圓く、基部に於ける幅は後半部に於ける幅よりも幾分小さい。脈は白色、膜質部には

全面に亘りて黒色の斑點を具へ、各脈もまた大部分黒點を具へてゐる。亞緣脈の中片は肘脈柄と約1/2長である。

腹部は背腹共に横走の黒色帶を各環節に具へ、雌蟲の陰具上片は下瓣よりも幾分長い。

宿主植物 クサボタン *Clematis*.

分布 長野縣上水内郡日里村、八ヶ岳々麓大泉驛、中央線大月驛前（採集日時 昭和十五年六月十五日）。

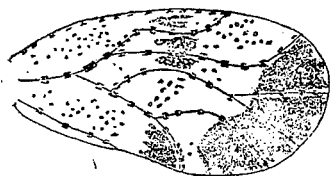
## (2) サイカチマグラキジラミ *Metapsylla robiniae* SHINJI

*Metapsylla robiniae* SHINJI, Kontyu XII, No. 4, p. 147 (1938).

サイカチ *Gleditschia horrida* MAKINO の生長端部の葉を葉裏を外にし葉軸に並行に縦に折り重ね、其の内部に寄生して蕃殖し、各個躰からは青色味を帯びた綿絮體を長く葉癭外へ分泌突出せしめてゐる。かゝる葉は生長後にも捲縮状態を續ける例がある。

### (成 蟲)

體は帶黃淡綠色。額錐は黃色でU字形の突起體を生じてゐる。口吻は前肢



第 39 圖

サイカチキジラミの前翅

を越して伸び末端は黒色である。複眼は濃赤色。頭部は黒色の縦線を具へてゐる。觸角は10節より成り第一、第二、第九、第十の4節と各節の末端部とは黒く第三—第七の6節の基半部は淡黄色である。

胸部の背面には5條の黒色縱走線があつて黒色を呈してゐる。肢は概して黒褐色である。翅は外縁を底邊とせる二等邊三角形形を呈し、地色は灰白色であるが多數の黒色斑紋乃至斑點を散在せしめてゐる。黒斑の主なるものは次の如くである、即ち前緣脈に沿うて16小點、徑脈に沿うて7點、[?]分脈

に沿つて 10 個、其の柄部に 2—3 個、交叉點に 1 點、MI 上に 5 個、M 2 上に 5 個、之の交叉點に 1 點、之等の柄部に 7 點、C<sub>1</sub> 上に 8、C<sub>2</sub> 上に 4、その交叉點に 1、其の柄部に 3 個、MC 柄部に 1、RMC 柄部に 3 個、臀脈上に 5 個、縁脈と RMC との間に 16 個、翅斑上に約 32、R と RS 間に約 20、R と C Ⅲ間に約 30 個、M の柄部と C の柄部との間に 18 個、RMC 柄部と臀脈間に約 55 個が 4、5 列をなしてゐる。翅の長さ 2.2 耗内外。楯長 2.0 耗内外。

### (3) ベニキジラミ *Psylla coccinea* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla coccinea* KUWAYAMA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. II. p. 171 (1907).

アケビ *Akebia kinata* DECNE の生長端に近い部分の葉に寄生する。本種の寄生を受けた葉は一般の例と異り葉裏を外、葉表を内側にして折れ重りて内に木虱が棲む。蟲體の直下に當る部分は幾分窪み且つ外側へ突出し、同時に葉上のものが肥厚するを以て恰も天狗巢病に罹つてゐるが如くである。6 月乃至 10 月に亘つて此種天狗巢病的蟲癭を成さぬアケビは殆んど絶無と云つて良い。此等折重する葉癭の内側には常に多量の水滴と蛻と木虱とが見られ、木虱は概して美麗な赤色であるが、樺色、黄色、綠色乃至白色に近い個體もある。赤色種も酒精中に保存する時は脱色して淡綠色となるものである。

### (成 體)

體は概して美麗なる朱紅色で顯著な毛を缺き頭尾方向に細い菱形である。頭部は 1 縱走皺襞で左右兩部に分たれ、額錐は長い方で、少數の毛を生じてゐる。觸角は 10 節より成り體の約 5 分の 3 長で基部の 2 節は赤く末端の 2 節は黒く他の 6 節は白色である。第三節は最長片で第四又は第五節の約 1 倍

半長あり、第七節は第六節よりも長く、第六節は第五節よりも幾分短い。胸部は朱色、肢は概して朱色で脛節端には黒色の距毛を具へてゐる。翅は準透明で脈は黄色。脛切脈は少々上方へ曲り、中脈は肘脈幹の約 4 分の 1 點から生ずる。腹部の背面には黒斑無く、第三—第六節は隆起してゐる。雌の上位生殖板は下位生殖板よりも長い。

#### (4) ヤマトキジラミ *Psylla jamatonica* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla jamatonica* KUWAYAMA. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 167 (1907).

體は淡綠色。頭部は黒色を呈せず、複眼は黒色、單眼は赤色。額錐は大き



第 40 圖

ヤマトキジラミの前翅

くして長幅共に第三觸角節と約同長。觸角は 10 節より成り、概して黄色なれども、第五—第八節の後半部と第九及第十兩節の全部とは黒色、第三節は第四節の約 1 倍半長、第九節は第三節と約同長、第六節が最短片である。端刺は第十節よりは短い。胸部黒色ならず、翅は準透明にして脈は黄色。肢の肘脈柄は中脈柄の約 2 分の 1 長。肢は黄色なれども後肢の距毛は黒色。腹部は黒色でなく黄綠色。上瓣は下瓣よりも幾分長い。

體長雌 2 耗内外、前翅長 2.1 耗内外。 \*

宿主植物 ネムノキ *Albizia julibrissin* DURAZZ.

分 布 全國的の分布をなし、成蟲は 7 月 5 日前後に現はれる。

#### (5) グミキジラミ *Psylla elaeagni* KUWAYAMA.

原記述 *Psylla Elaeagni* KUWAYAMA, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 164 (1907).

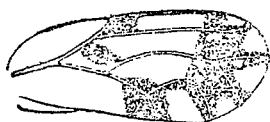
## (成 蟲)

體は黄綠色にして頭部は黒色ならず、額錐の先端は尖り、綠色。複眼は黒色である。觸角は前翅の約半長にして黄白色なれども九、十の兩節は黒色である。肢は黄色にして脛距のみ黒色。翅は準透明にして脈は黄色。本種の見易き特徴としては前翅の内縁室端及び第一室より徑分脈に至る各脈間の外縁に接する部に各1個、計5個の黒褐色の斑點があることである。

(6) イタドリマダラキジラミ *Psylla itadori* SHINJI

*Psylla itadori* SHINJI, Kontyu vol. XII, no. 4, p. 149 (1938).

イタドリ *Polygonum Rynoutria* MAKINO の葉裏に寄生する 扁平淡褐色



種で北海道・本州・四國・九州に分布してゐる。

本種に寄生せられた場合には比較的古い葉は變形しないが、生長端部の嫩葉は縦に捲縮せられる。

第 41 圖

る。9月、10月頃には花もまた寄生されて一塊を

イタドリキジラミの前翅 成し恰も寄木が生じたかの如き觀を呈するに至るものである。6月—10月にかけて各地で採集し得られる。

## (成 蟲)

體は褐色味の勝れた黄色である。額錐は華圓錐狀で大きく幾分黒色味を帯びてゐる。額部は薄黒く灰白色の縦走線を具へてゐる。複眼は黒色、單眼は赤色を帯びてゐる。胸部は薄黒く、約5條の白色縦走線を具へてゐる。肢は割合に短小で脛距兩節は黒く殘部は白色である。翅は準透明で末端は尖らず、前翅の脛脈端は亞縁脈と約直角をなしてゐる。肢は短く、脛節は黒色である。腹部は淡黄色の地色に黒色の横走帯を各環節上に具へてゐる。生殖瓣は栗色で、末端部は黒色、若干の毛を生じてゐる。體長1.7—2.0 耗、前翅長2.0 耗。

(7) サナヘクデキジラミ *Psylla fulvicola* SHINJI

原記述 *Psylla fulvicola* SHINJI, Insect World, vol. XLVI, no. 533, p. 4 (1942).

體は黄色。頭部は少しく赤色味を帯びてゐる。觸角は 10 節より成り、第九、第十の兩節は黒色、其他の諸節は黄色である。第一、第二の兩節は約同長、第三節は第四節の約 1 倍半長、第九、第十の兩節は他節の 2 倍の幅に肥

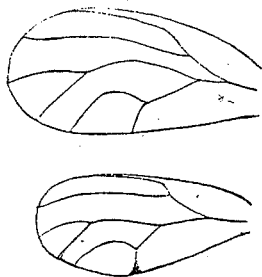


図 42 圖

上 ガムズミキジラミの前翅  
下 サナヘタデキジラミの前翅

大してゐる。第十節端に生ずる剛毛は第九節よりも長く、第十節は圓く終り、第九節よりも小である。胸部は黄色、腹部の各環節端は線状に黒い。後翅の 5 距毛は黒色にして長く、爪は長い。前翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約 4 分の 3 長である。

有翅蟲は 7 月 10 日前後に現はれる。全國的

の發生をする。

標型地 東京都、杉並區荻窪。

宿主植物 サナヘタデ *Polygonum lapathifolium* L.

(8) サクラタデキジラミ *Psylla polygonifoliae* SHINJI

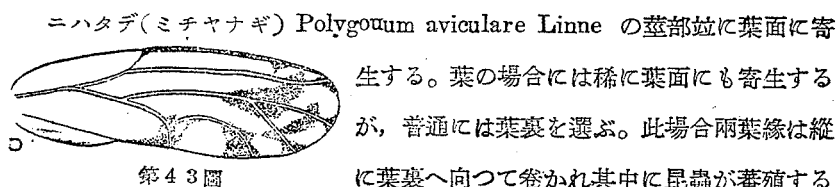
原記述 *Psylla polygonifoliae* SHIN., Insect World vol. XLVI, no. 533, p. 4 (1942).

體は寧ろ少數の毛を生じ帯黄淡褐色である。頭部の背面は 1 縱走皺襞によつて 2 分割せられ、額錐は顯著で黄色。口吻は前肢の基節を過ぎて伸び末端節は黒色、殘節は黄色である。觸角は 10 節より成り、複眼を含む頭幅よりも遙かに長く、前肢の脛跗兩節の和と約同長である。末端の 2 節は黒く、他

節は黄色。第三節は最長，第四第五第六の3節と第七第八の2節とは夫々同長，第九，第十の兩節も亦同長で共に第七節よりも短い。複眼は濃紅色。胸部は良く發達し，背面の4側縁は黒く中部には縦走せる4條の灰白色部と黄色部とが交互に配列してゐる。

(9) ニハタデキジラミ *Psylla polygoni* SHINJI

*Psylla polygoni* SHIN., Kontyu, XII, 4, pp.  
146—147 (1938).



第43圖

ニハタデキジラミの前翅を見る。蟲體は帶青白色の綿絮物を分泌し，之が線狀をなして捲縮蟲癭外へ突出する。7月下旬から10月下旬に亘つて採集し得られる。

(成 蟲)

體は淡綠色で顯著なる毛を缺いてゐる。頭部は1縦走黑色線で2分割せられ，淡綠色地に黑色の斑紋を具へてゐる。複眼は濃赤色。額錐は準圓錐狀で高さは基部に於ける幅と約同大で白色，末端は鋭く尖らない。觸角は10節より成り，第一第二第九第十の4節は黑色，殘節は白色である。胸部は良く發育し，背面の4縁は黒く，地色は白色で筋肉は黄色である。肢は寧ろ短小で第二跗節と爪とは黒く，殘部は體と同色である。翅は準透明で脈は黄色。翅斑は細長で殆んど翅端に達し，第二肘脈は黑色である。腹部の背面には黑色の横走帯がある。生殖瓣は雌雄何れの場合にも上位のものが下位のものよりも長い。

體長約 2.1 耗，前翅長 3.1 耗，觸角長 0.95 耗。



(10) ナシキジラミ *Psylla pyrisuga* FOERSTER

原記述 *Psylla pyrisuga* FOERST., *psyll. Ver. Nat. Ver. Preuss. Rheinl.* 3, p. 78 (1848).

副記述 *Psylla pyrisuga* KUWAYAMA, *Trans. Sapporo. Nat. Hist. Soc.* II, 165 (1907).

異名記述 *Psylla austriaca* FLOR., *K. d. Rhyn.* p. 372 (1861).

*Psylla rutila* MEYER-DÜR., *Psyll.*, p. 394 (1871).

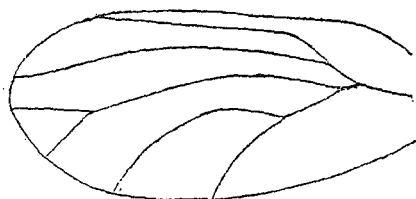
*Psylla ruftarsis* MEY.-DÜR., *Psyll.* p. 394 (1871).

*Chermes Pyri* SCHMIDBERGER, *Beitr. z. Nat. Schaal. Ins.*, I, p. 179 (1827).

體は淡緑乃至淡黄色にして複眼は濃赤色にして黑色に近く、觸角は體の約3分の1長にして準絲狀、10節より成り、第九、第十の兩節は黑色、第四—第八節の末端部は黑色を帶び、殘餘の部域は淡黄色である。額錐は顯著にして淡黄色。肢脚は概して黄色。胸部は大體黄色。翅は準透明にして脈は黄褐色、肘脈柄は中脈柄の約3分の2長。雌の生殖器にありては上位瓣は下位瓣よりも遙かに長く、共に黄色である。體長3耗内外。北海道以南九州朝鮮にも分布し、4、5月頃に梨の枝梢、葉柄等に寄生し、或者は葉裏を侵し、此の場合には葉の卷縮を誘致する。


(11) ナナカマドキジラミ(新稱) *Psylla sorbii* SHINJI new sp.

體は黄色。頭部は薄黒く、複眼は黑色、單眼は赤色。觸角は10節より成り、第九、第十の兩節のみ黑色、他節は黄色、第三節は第四—第八節の和と約同長、第五節—第十節は幅よりも短くして球形、第四節は幅よりも幾分長い。端刺毛は第七—第十節よりも幾分短い。胸部は概して美麗なる黄色。6



肢の腿節は脛節の5倍以上に肥大し、黄色である。腹部は概して黄色、下瓣は上瓣よりも僅かに長い。

第44圖 ナナカマドキジラミの前翅 翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約2分の1である。

宿主植物ナナカマド *Sorbus commista* Hedl. 

成蟲採集 6月15日。

標型地東京都府中町。

# (12) ガマヅミキジラミ(新種) *Psylla viburni* SHINJI

原記述 *Psylla viburni* SHIN., *Insect World*, vol. XLVI, no. 533, p. 2 (1942).

體は美麗なる黄金黄色にして蒼白色の白粉と綿絮物とを装着して居る。頭部は黄色。複眼は濃赤色にして黑色に近く、單眼は赤色である。觸角は10節より成り、第一、第二の兩節は長幅約同大、第三—第九の末端部と第十節の全長とは黑色、残部と他節とは黄色である。第三節は第四節の約1倍半長、第四—第八節は約同長、第九及第十の兩節は同長にして第八節の約2分の1長。末端の2剛毛は黑色にして第八節と約同長。胸部は概して黄色、翅は準透明にして脈は黄色、肘脈柄は中脈柄の約2分の1長。肢は爪と後肢の4距毛と第一跗節の2距毛とが黑色。額瘤は大きくして黄色、第十觸角節と約同長である。尾端の下瓣は上瓣よりも少しく長く、黄色である。

宿主植物 ガマヅミ *Viburnum dilatatum* THUNB

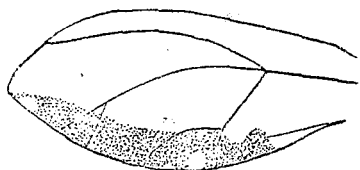
採集年月及標型地、東京都府中町、6月20日。

(13) クマヤナギトガリキジラミ *Trizoa berchemiae* SHINJI

原記述 *Trizoa berchemiae* SHIN., 昆蟲世界 XLII 卷, 496 號, p. 2  
(1938).

體長 2.9 綫内外, 前肢長 3.2 綫内外であるが, 概して早季に羽化するものは大きい。一般の體色は黄金黄色。僅かに翅の後縁近くに黑色の波狀帯があるのみで體全體は黄色であるが, 老熟せるものにありては複眼並に觸角の末端部なる 2 節もまた黑色である。

第 45 圖  
クマヤナギトガリキジラミの前翅



頭部は胸部よりも幅小さく, 頭頂は寧ろ扁平にして長さは幅の半よりも大, 額錐は圓く終り, 微細なる毛を密生してゐる。觸角は 10 節より成り, 第一, 第二の兩節を除けば頭部の兩複眼間と約

同長, 第一, 第二の兩節は共に他の節の數倍大の直径を有し, 長幅約同大, 第九—第十の兩節は黑色にして第十節の末端よりは 2 個の剛毛が生じてゐる。複眼は半球形にして濃赤色乃至黑色味を帯びてゐる。

胸部は著しく隆起し, 黄色にして前胸背は短い。肢脚は短大にして寧ろ頭丈, 爪は 2 個にして黑色, 後肢の脛節端近くには 4 個の黑色なる距刺を具へてゐる。翅は準透明にして翅脈は黄色, 準葉狀にして末端は光り, 長さは幅の 3 倍半以上ある。徑・中・肘の 3 脈は翅基よりも全翅長の約 4 分の 3 域に於ける 1 點より同時に生じ, 肘脈柄は缺如してゐる。翅頂より内縁に沿うて 1 條の黑色波狀體があり, 他種との區別をするのに便利である。

雌蟲の生殖瓣は上瓣が下瓣よりも遙かに大, 兩瓣の末端は黑色を帯びてゐる。雄蟲のものは短小にして腹部の末端節と約同大である。腹部の背板は著しく隆起し, 各環節の接觸部は濃黄色である。

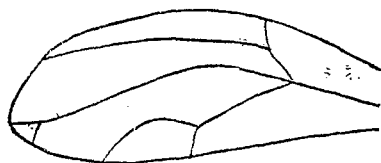
## 蟲 癭

本種はクマヤナギ *Berchemia racemosa* SIEB. et ZUCC. の新芽に産卵し、幼蟲は葉表に1種の蟲癭を形成する。蟲癭は葉脈間の部分が葉表へ半球形にして扁平なる囊狀體をなして突出したるものにして直徑4耗内外、高さ3耗内外、表面は平滑にして多くは紅色又は帶黃綠色を呈してゐる。蟲癭形成の當初に於ては幼蟲は蟲囊の裂口の口縁に棲息するが、長ずるに従つて蟲囊内に棲むに至る。幼蟲は孵化後約4週間を経て、6月20日前後に羽化して成蟲となる。年1回の發生をなし、従つて7月以降に至れば本種の成蟲を得られなくなるものである。

(14) クロトガリキジラミ *Trizoa nigra* KUWAYAMA

原記述 *Calophya nigra* KUWAYAMA. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., II, p. 160 (1907).

體は黑色、頭部は黑色。複眼は黑色にして大、額錐は末端が尖つてゐる。觸



第 46 圖  
クロトガリキジラミの前翅

角は短くして僅かに胸部と約同長、全長に互り黑色にして第一第二の兩節を除けば各節は圓筒狀にして幅よりも長い。前翅は準透明にして脈は黄色、翅端は尖つてゐる。腹部は全體としては

黑色にして各節端は帶狀に黄色である。雌蟲生殖器の上位瓣は下位瓣よりも長く、末端は尖つてゐる。北海道より九州に互り分布してゐるが、個體の發生數は割合に少い。

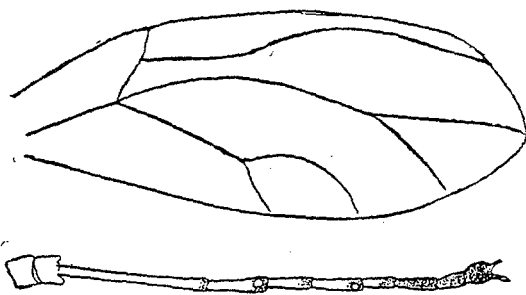
(15) ウコギトガリキジラミ *Trizoa ukogi* SHINJI

原記述 *Trizoa ukogi* SHINJI, 昆蟲世界 XLIV 卷, 511 號, p.2(1941).

## (雌 蟲)

體は寧ろ大形にして、地色は黄樺色である。頭部は黒色部を有せず、複眼

第 47 圖  
ウコギトガリキジラミ  
(上) 前 翅 (下) 觸 角



は淡汚褐色。額錐は顯著なれども末端は尖らず、觸角は頭、胸兩部の和よりも短く、10節より成り、第一第二の兩節と第一乃至第五節の大部分とは黄色、他部は黒色、第三節は最

長片にして第四、第五、第六の3節の和と約同長、第九、第十の兩節は第一第二兩節と約同長にして且つ膨大し、第五節は第四節の約半長である。翅は前後兩對ともに透明、脈は黄褐、翅長は翅幅の約4倍、翅端は尖つてゐる。徑中肘(合同)脈は中脈柄の2分の1、第一中脈は第二中脈よりも長く、中脈柄は第二中脈の約2倍長、徑脈柄は第一徑脈の約2倍長、第二徑脈は波狀を呈し、翅頂に達せず、柄部の約6倍長。肘脈柄は第二肘脈の約3倍長、第一肘脈は第二中脈の約2倍長にして甚しく上(前)方へ彎曲してゐる。2肘脈間と二中脈間とは各1條づゝ點線より成る斑紋が翅縁近くにあり、また、前後兩翅の臀脈と翅縁との間域は黒色に霞んでゐる。肢脚は寧ろ短小にして概して黄色。距毛は黒色である。腹部は黄樺色の地色上に背面には黒色の横走帯がある。雄蟲の柵握器は黄色にして角質、上(背)瓣は下瓣よりも幾分長い。

體長 3.5 耗 前翅長 4.5 耗。

#### 蟲癭及生活史

本種はウコギ *Acanthopantus spinosus* D. et B. の葉柄の基部に大形の蟲癭を形成し、其内にありて生長する。蟲癭は苞狀乃至長紡錘形にして兩端が

細く、中部が膨大してゐる。長徑10耗内外、短徑4耗内外。表面は綠色にして平滑、壁は厚さ約1耗、内部は1乃至3室に隔離され、各室は1幼蟲を容れてゐる。幼蟲は綠色にして扁平蒼白色の綿絮物を分泌する。蟲癭は6月中旬頃までには殆んど成長し終るものなれども、幼蟲は生長遅々として進まず、10月20日頃より成長し終りて蟲癭の中央部を裂開して外部に出て羽化して成蟲となり、次で交尾後に雌蟲は芽蕾の基部に産卵するものと、離脱落下する蟲癭内に幼蟲の有様にて越年し、翌年4月下旬—5月に羽化し出る個體とがある。

標 型 地 岩手縣盛岡市外淺岸村、東京都府中町。

宿主植物 ウコギ

(16) クハキジラミ *Anomoneura mori* SCHWARZ

體は黃色にして寧ろ大形の部に屬し、雌の體長は4耗内外、前翅長4.5耗内外を測る。複眼は黑色。觸角は10節より成り、第四～第八節の末端部と第九、第十兩節とは黒く、殘域と殘節とは黃色である。胸腹兩部は概して黃色なれども若干の灰白色體が認められる。肢脚は黃色。前翅は準透明にして諸脈は黃色、徑分脈は單1ならずして前方に3—4枝を生じてゐる。翅端附近並に中央部には黑色に霞んだ部分がある。幼蟲の生殖器は先端が尖り、上位瓣は下位瓣と約同長若しくは幾分より長い。桑の葉裏に寄生して白色の長い綿絮物を分泌してゐる。嫩葉に寄生する場合に限り葉の卷縮を誘致する。全國的の分布をなしてゐる。

(17) タカトウダイキジラミ *Trizoa Euphorbiae* SHIN.

原記述 昆蟲第46卷、2號、2頁。(1942).

(雌蟲) 體は中形、寧ろ扁平にして淡綠色乃至淡黃色地に黑色の斑帶を具へてゐる。頭部は淡黃色にして黑色部を有せず、額錐は甚だ短く且つ末端は

圓く終つてゐ、黃色である。複眼は顯著にして濃赤色、殆んど黑色に近い。單眼は複眼とは明瞭に分離し、赤色である。觸角は頭胸兩部の和よりは著しく短く、10節よりなり、第八節の後半部以後第十節の末端に至る部域は黑色にして覆瓦狀を呈し、殘餘の節と部域とは體と同色の淡黃色である。第一節は幅よりも長さが劣り、第二節は長幅約同大にして幅は第一節の幅の約2倍大、第三節は最長片にして第四・第五・第六節の和と約同大、第四節は第六節と約同長、第五節は第四節の約2分の1長、第七節は第八～第六兩節の何れよりも短い、第九節又は第五節よりも半分長く、第十節は第九節よりも幾分長くして末端には黑色の2剛毛を生じてゐる。胸部特に背板は黃色にして楯、後楯板は甚だ長く、各楯板は黑色縁を以て堺してゐる。肢は寧ろ短大にして淡黃色であるが第二跗節と爪とは黑色、腿節は脛節よりも幾分短く、後脛節端には黑色なる剛毛が3個稀には4個生じてゐ、褥は爪よりも幾分長くして淡黃色である。前翅はトガリキジラミ形ではあるが、末端は甚しく尖らない。翅長は翅幅の約3倍大、脈は黃色、徑中肘の3脈は同じ點に於て分れ、徑脈枝より生ずる徑脈は途中に於て少しく前方へ曲りて後に翅端前に於て前縁脈に合し、中脈枝は分離後殆んど直ちに上方へ彎入して後に翅端に達し、之れより生ずる第二中脈は外縁に於て且つ徑脈が前縁に交ると同じ距離に於て交つてゐ、第一肘脈は第二肘脈と第二中脈との中間を走つてゐる。後翅に於ては肘脈板は脛中脈の分離前に分離し、中・徑兩脈は翅頂の上・下兩縁に於ける等距離の點に於て翅縁に出會つてゐる。腹部の地色は淡黃色であるが、第一乃至第七腹環節の背、腹兩板は黒く第七以後の諸節は淡綠色である。雌蟲の尾端なる兩瓣は共に淡綠色にして上瓣が下瓣よりも幾分長い。成蟲の出現期は11月5日前後である。

(蟲癭) 本種は東京附近に於てはタカトウダイの地上莖に産卵し、此の部に生ずる側枝5—7個に幼蟲が寄生する時は芽は變形して殆んど叢出葉塊

をなし、幼蟲は各捲縮葉間に白色扁平の蟲體をなして寄生し、晩秋の候に成蟲化する。

(18) クリトガリキジラミ *Trizoa quereicola* SHIN .n. sp.

體は小形にして淡綠色乃至淡黃色。頭部は胸部よりも幅小く、複眼は薄黒い。額錐は額と約同長程に長大にして長圓錐形、末端より約3分の1位の所が縊れてゐる。全長に互り淡綠色にして多數の長毛を生じてゐる。觸角は胸部よりも長く、7—9節より成り、第一第二の兩節は長幅約同大にして淡綠色、第三節—第七若しくは第九節は黑色にして絲狀である。第三節は第四節の約2倍大、第四節は第五節よりも長く、第五節は最短片、第六節、第七節及び第八節は第三節と約等長、第九、第十の兩節は約等長にして共に第八節の約半長である。

胸部は隆起甚しからず、全長に互り淡綠色乃至淡黃色。肢脚は寧ろ短大、爪は2個にして黒褐色、後肢の脛節近くには3個の黑色なる距刺を具へてゐる。翅は準透明にして翅脈は黃色、準葉狀にして翅端は尖り、長さは幅の約3倍長ある。徑・中・肘の3脈は翅基より全翅長の約4分の1域に於ける1點より同時に生じ、肘脈は全長の2分の1長を過ぎて1枝を生じ、中、肘兩脈間と肘脈兩枝間との翅縁部には點線部がある。雌蟲の生殖瓣は上瓣が下瓣よりも長い。體長雌蟲 2.4 耗、雄蟲 2.2 耗、翅長 3 耗、觸角長 1 耗。

標形地 東京都下府中町

蟲癭及生活史 本種はコナラ・クヌギ及びクリの葉裏に囊狀の蟲癭を形成し其の囊狀蟲癭の入口部に寄生する。蟲癭は葉裏に開口し、此の部の長徑は4耗内外、短徑 2.5 耗内外、深さ 3—4 耗、葉表方面に突出し、葉表部の色は黃色なれども、先端の尖れる部分は褐色である。第1回の幼蟲は6月10日頃に現はれ、これが7月20日前後に成蟲となり、第二世代の幼蟲は8月10日



前後に現はれ、成蟲は 10 月 20 日前後に現はれる。]

## 介殼蟲科 COCCIDAE

肢脚の附節は 1 節より成り末端には 1 爪をつけ、觸角は連鎖狀にして 6—25 節よりなる。雌蟲は終生無翅にして、多くは幼蟲期にのみ移動し、成蟲となれば固着生活をなすが、産卵期に入るまで移動し得る類もある。後者は所謂裸介殼類 *Unarmed scales* であり、前者は有殼介殼類 *Armed scales* であつて、自體より分泌する角質様物質と脱皮とより成る 1 種の介殼にて覆はれてゐる類である。共に雌蟲は無翅、雄蟲は小形にして且つ 2 回の蛹期を経て後に有翅の成蟲となる。雄蟲の前翅には翅脈少く、後翅は退化して平均棍と化し飛翔の用をなさない。本科にはサンノゼカヒガラ、の如き果樹の大害蟲が多數あるが、蟲癭昆蟲としては下記 3 種が主なるものである。

### 堅介殼蟲亞科 SUBFAMILY LECANIINAE

幼蟲及雌蟲の腹部の臀板部には深い罅隙がありまた之に接して 1 對の準キチン質の三角板がある。肢脚は多くのものに存し、下唇は 1 環節より成つてゐる。皆概して大形である。

### 綿介殼蟲屬 Genus *Pulvinaria*

雌蟲は充分生育して産卵期に入れば腹端より白色綿絮様の蠟質物を分泌して所謂卵囊を形成し、其の内に産卵する。卵囊は體の 1 部を覆ふ事あるも全體を被覆する事はない。

#### (1) クハノワタカヒガラムシ *Pulvinaria kuwanae* KUWANA

體は橢圓形にして扁平、桑樹の皮面竝に葉裏に寄生し、嫩葉は爲めに捲縮する。體の地色は淡黃色、卵囊は白色にして體よりも長く、背面に凹線が縦走してゐる。觸角は8節より成り、第三節是最長片、第四節は之に亞ぐ長片、第二節は幾分短い。第七節是最短片で末端近くに若干の長毛を生じてゐる。肢は3對共顯著にして約同大、跗節は脛節の約  $1/2$  長、體側の縫込は淺く、3個の刺毛を生じてゐる。三角板は小さく、底邊と外邊とは約同長にして頂點には數本の剛毛を生じてゐる。

體長7耗内外、卵囊長約10耗。

分布 本州に普通の種である。

嫩葉のみが捲縮して蟲癭をなす。

#### カヒガラモドキ属 Genus *Phenacoccus*

體は橢圓形にして觸角は9節より成り、6肢は顯著、肛門輪には6個の剛毛が生じてゐる。産卵期に入る前には體に白粉を着けてゐる。卵子は白色綿絮物よりなり卵囊内に産せられ、産卵後の體は萎縮して僅かに卵囊の前端に残る1小部分のみ囊外に顯はれるに至るものである。

#### (2) オホワタカヒガラモドキ *Phenacoccus pergandeia* COCQUEREL

體は橢圓形にして扁平、腹部の環節は判然してゐる。概して紫褐色にして、産卵を終りたる個體にありては體は僅かに卵囊の前端のみを現し、他は卵囊にて被包されてゐる。卵囊は甚だ長くして體の約10倍長である。觸角は9節より成り、第三節是最長片、第二節が之に次ぎ、第八節が最短である。之を觸角式で表はせば3, 2 (1, 4, 5, 6, 9), 7, 8となる。脚は判然し、爪は内縁に鋸齒を有し、冠球毛は2對ありて跗節の末端より生ずるものは細長く、爪の基部にあるものは短大である。肛門輪には6個の剛毛を